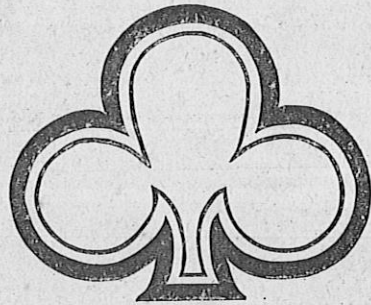


毛糸・服地

防寒コート・毛織地シヨール



京都シヨツプガイド加店盟

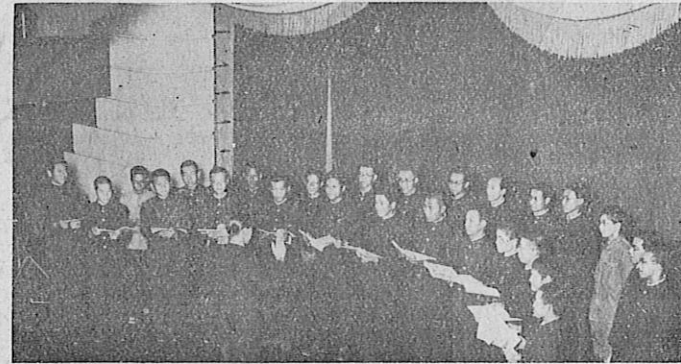
三ッ葉屋

四條堺町東・四條富小路西・河原町丸太町北



ゲリークラブ
創立卅五周年

記念音楽會



昭和14年11月4日(土)午後七時

於 同志社 榮光館

祝 盛 會

ひらかた菊人形

聖花に燦タリ日本精神
豪華見流し三十場面
菊花忠孝十五段返し

鍛へよ身心・歩めよ山野

十一月中各コース割引券發賣

醍醐縦走コース・醍醐横断コース
男山縦走コース・天王山柳谷コース
西山めぐり。宇治轡池コース
攝津耶馬溪阿武山コース
全 ボンボン山コース
鷲峯山コース・湖南アルプス

比良山の家

青少年野營生活訓練道場
ベット(壹人一泊50錢)
和室三人用 ¥2,00

お問合せと各種乗車券前賣

京阪電車京都案内所

電話本局 ② 2478 番

賛助出演 ピアノソロ及伴奏 勝 俣 敏 子 嬢
混 聲 合 唱 同志社混聲合唱團
指 揮 森本芳雄氏
伴 奏 中瀬古和子嬢

音 樂 部 長 村 岡 景 夫 教 授
理 事 柳 原 一 男
マ ネ ジ ャ 方 華 日
サブマネジャ 押 鴨 丈 夫
指 揮 者 千 葉 昌 良
 大 槻 彰

グリークラブ部員

第一テノール

押 鴨 丈 夫 渡 邊 泰 造 杉 本 正
 (出征中)
福 井 望 金 德 俊 宮 川 文 高

第二テノール

松 本 寛 二 入 江 良 三 渡 邊 英 一
末 光 伸 雄 野 上 一 雄 籤 内 助 治 郎
(病 缺)
林 茂 島 村 幸 泰 韓 哲 曦

バリトン

千 葉 昌 良 吉 田 希 夫 大河内 弘 介
大 槻 彰 小武内 忠 夫 栗 原 道 雄
木 納 藤 衛 澤 田 博 鈴 木 武 二

バス

柳 原 一 男 脇 田 悦 三 村 上 夏 夫
方 華 日 横 屋 壽 金 賢 宰
寺 田 穰

グリークラブ略史

クラブ創立までの経過

明治三十六年 渡部守成氏、同志社へ入學するや、宗教音楽による學生の人格陶冶を高調し、讚美歌の合唱練習を始めたり。

同 三十八年 宣教師オルチン氏の指導を受けつゝ、渡部守成、速水藤助、伊藤孝等の諸氏の盡力により漸く讚美歌の男聲四部合唱行はれるに至れり。此の合唱メンバーは市内各教會へ進出合唱したれど、當時の同志社學生は粗野蠻風を誇り、音楽等を行ふ者を迫害したれば校内に於て合唱することは困難なりき。

同 三十九年一月 東北地方飢饉救済費募集音楽會開かれ、京都にて開催されし最初の洋樂有料音楽會なりき。此の音楽會にて渡部守成氏指揮になる同志社學生三十餘名の男聲合唱團は「復活の歌」を合唱して喝采を拍したり。是最初の公開大合唱たりき。

同 四十一年 境野周次郎、海老澤亮、堀内清等の諸氏によりダヴィデ、クワイヤー組織されい 市内各教會に於て盛に合唱したりき。時を同うして當時東寮々長片桐哲氏寮生の蠻勇、亂暴なるを沈和せしめんため讚美歌の合唱練習を始めたり。兩者共に今日のグリークラブの前身となる。

同 四十四年 片桐哲氏従来の合唱團を改革統一し、整備せる合唱團に再組織化し、始めて同志社大學グリークラブと稱するに至る。第一代指揮者は片桐哲氏。

グリークラブ史(沿革)

大正二年四月 メンバー中の一部の人々宗教樂曲のみを合唱するグリークラブの趣旨に満足せず、獨立してプリムローズクラブを組織す。

同 四年五月二十二日 グリークラブ・カルテット名古屋市へ最初の演奏旅行を行ふ(以下小演奏旅行省略)

同 五年十一月二十八日 第一回同志社イーヴ開かる。同年グリークラブ第一回歌の夕を開き、今日までに四十五回を重ね。

同 六年 第一回滿洲朝鮮大演奏旅行行はる(七月七日より八月一日まで)メンバー(堀内清、山下匡、原忠雄、平田甫、小島應、大中寅二)

同 八年 第二回滿洲朝鮮大演奏旅行行はる(七月四日より四十日間 中國、九州、朝鮮

滿洲、)二十四都市にて三十三回演奏會開催(メンバー(湯淺永年、山口隆俊、古内廣武、陳清忠、田島光三)

同 十年七月 第一回北陸、東北、北海道、大演奏旅行行はる。(金澤、仙台、札幌、東京他六都市にて演奏會開催)

同 十一年七月五日より九月六日まで 渤海、黃海一週大演奏旅行行はる。内地(福岡他三市)朝鮮(京城他四都市)滿洲(奉天他九都市)支那、北京、天津、青島、上海、)メンバー(山口隆俊、原 忠明、津下統一郎、鈴木重敏、森本芳雄)

同 十二年七月 第一回台灣、九州演奏旅行行はる

同 十四年 九州地方演奏旅行行はる。(一月)東京東北地方演奏旅行行はる(四月)

同 十五年七月四日より二十六日まで 第四回滿洲、朝鮮大演奏旅行行はる

昭和三年 上海演奏旅行行はる(四月)第五回滿洲朝鮮大演奏旅行行はる(七月)

昭和四年 二月五日、同志社混聲合唱團(八十名)東京日本青年會館にて合唱す。沖繩演奏旅行行はる(三月)

昭和五年七月十五日より八月一日まで 第二回台灣演奏旅行行はる(一行一六名、台北他六都市にて音楽會開催)同十二月關西學生合唱聯盟結成さる

昭和六年 一月第一回學生合唱聯盟音楽會へ出演す。同五月岡山倉敷演奏旅行。第二回北陸、北海道大演奏旅行行はる(七月十七日一三十日一行十八名)

同九月、第一回同志社立教交歓音楽會東京朝日講堂にて開かる。同十月同志社混聲合唱團(八十名)及びマンドリンオーケストラ(二十名)名古屋市公會堂にて音楽會開催。此れは同志社音楽部史上記憶すべき大音楽會である。

同十二月女專グリークラブと第一回クリスマスカロルを行ふ(一行十八名)

昭和七年 二月新讚美歌發表音楽會に出演。同月新築された榮光館に於て同志社混聲合唱團發表音楽會開かる。同五月第二回立教同志社交歓音楽會榮光館 同七月四國地方演奏旅行行はる(一行十八名)同十一月同志社宗教樂協會第一回發表會開かる(榮光館)

昭和八年 六月第三回立教同志社交歓音楽會開かる(於立教大學) 同月同志社宗教樂協會第二回定期演奏會開かる(於榮光館) 同志社に於て管絃樂伴奏の混聲合唱が行はれたのは此れが最初であらう。同十一月奈良にて音楽會を開催 同十一月第三回宗教樂協會定期演奏會を開く。

昭和九年 グリークラブ三十周年(記念事業として六月大中寅二氏オルガン演奏會開

催) (於チャペル) 同七月 郡是にて音楽會。九月「グリークラブの歴史を語る會」を
 (於アーモスト會館) 開く。同十月 グリークラブ三十周年祝賀會開かる(於新島會館)
 同十月十三日(土)午後七時創立三十周年記念音楽會を開く。(於榮光館)先輩宅孝二氏、同
 湯淺永年氏、中瀬古和子嬢及女専合唱團の賛助出演を得盛大に舉行さる
 同十二月十三日グリークラブ三十周年記念号發行す。

昭和十年 五月近江八幡演奏會。七月同志社創立六十周年記念四國演奏旅行を行ふ。
 (一行十八名)
 八月二日 同志社大學歌發表音楽會 同三日同志社新校歌及び六十周年記念式歌發表會
 十月二十九日同志社創立六十周年記念音楽會開かる。(曲目 救世主…全國中繼放送)
 同じく大阪中島會堂並に和歌山市公會堂にて音楽會開く。

昭和十一年 一月先輩山口隆俊氏「獨乙男聲合唱發達史」の講演開かる。七月廣島演
 奏旅行行はる。

昭和十二年 浪波教會讚美禮拜を行ふ。秋神戸教會讚美禮拜を行ふ。
 昭和十三年 五月全關西合唱聯盟結成記念音楽會に同志社混聲合唱團(百余名)出演す
 六月近江八幡音楽禮拜

昭和十四年 十月九日三十五周年記念會を開く。

グリークラブ歴代指揮者氏名

- 片 桐 哲氏 (明治四十四年—大正二年)
- 濱 田 格氏 (大正二年—大正三年末)
- 平 田 甫氏 (大正四年—六年)
- 水 谷 央氏 (大正七年半まで)
- 園 川 四 郎氏 (大正七年半より末まで)
- 湯 淺 永 年氏 (大正八年—十年三月)
- 山 口 隆 俊氏 (大正十年—十一年末)
- 三 輪 雅 夫氏 (大正十二年半まで)
- 森 本 芳 雄氏 (大正十二年—十四年末)
- 山 田 基 男氏 (大正十五年—昭和五年末)
- 岸 田 治 夫氏 (昭和六年—七年末)
- 今 西 善次郎氏 (昭和八年)
- 太 田 三 郎氏 (昭和九年—十一年)
- 千 葉 昌 良氏 (昭和十二年—十三年末)
- 大 槻 彰氏 (昭和十四年)

ウ ェ デ ィ ン グ ド レ ッ ス
御婚禮衣裳



- A 本衣裳、正絹クレープデシン製
 御召代へ衣裳 //
 御下衣附屬飾品一揃付
 ￥100.00
- B 本衣裳、正絹サテックレープ製
 御召代へ正絹衣裳クレープデシン製
 御下衣附屬飾品一揃付
 ￥150.00
- C 本衣裳、正絹サテックレープ製
 御召代へ衣裳 //
 御下衣附屬飾品一揃付
 ￥200.00



マルサン

四條大丸前 電本 1676 5343

プログラム

國 歌

默 禱 海行かば……英靈に捧ぐ

校 歌

部 歌

三輪源造作歌
大中寅二作曲

I 合 唱

- | | |
|-----------|--------|
| 1) 春を惜みて | ハウプトマン |
| 2) 御恵の主よ | ハウプトマン |
| 3) 御使來り給ふ | ハウプトマン |

II 合 唱

- | | |
|----------|---------|
| 1) 獵人の別れ | メンデルゾーン |
| 2) 夏の歌 | メンデルゾーン |

III 混聲合唱

美はしく碧きドナウ シュトラウス

III 合 唱(先輩合同)

- | | |
|-------------|--------|
| 1) 詩篇九十八 | 平田 甫編 |
| 2) 御榮えぞいと高し | モーツァルト |

V ピアノ獨奏

奏鳴曲 嬰ハ短調 作品27第二番 ベートーヴェン

アダチオ ソステヌート

アレグレット

プレスト アダタート

VI 合 唱

祈 願

メンデルゾーン

コラール

アレグロ モデラート

アレグロ モルト

コラール

＝ 休 憩 ＝

曲 目 解 説

グリークラブの歌

三輪源造作歌
大 中 寅 二 作 曲

グリークラブが三十週年記念會を持つに當つて、クラブの歌として、詞を三輪教授に曲を大中先輩に、それぞれ依頼して作つて戴いたものである。

- | | |
|--|---|
| 1、東四明の朝日影
西に愛宕の夕づつを
仰ぎて祈り、祈りては
歌ひ始めし歌の友 | 3、人の爲にといそしめば
父の御神も諸共に
働き給ふたのしさを
感謝とともに歌はまし |
| 2、暮れぬ春日の福音に
清き生命の歡喜を
世の人々に燃すべき
御歌をともに歌はまし | 4、天と地との調をば
整へ合はず歌聲は
學びの窓にいつまでも
朝な夕なに續けかし |

I 合 唱

- 1) Ich will die Fluren meiden "春を惜みて"
作品四十九ノ十
Hauptmann曲 (1792—1868)
F. Ruckert詞

悲しみつゝも春の野を去らん 常に我が心に春あれや
絶えず泉湧き、花咲き、又鶯鳴けかし。

- 2) Du Herr, der Alles wohlgemacht "御恵の主よ"
作品四十九ノ四
Hauptmann曲
F. Ruckert詞

- 御恵の主よ、主の望み給はざるもの捧げず、主は凡て我等が思ふに優りて爲し給ふ。
- 我が身を御手の内に委ね、喜びに悲しみに只管主に頼りまつらん。
- 常に吾等を顧み平安を與へ給へ。嘗試にあはせず導き給へ。

- 3) Ihr Engel die ihr tretet "御使來り給ふ"
作品四十九ノ二
Hauptmann曲
F. Ruckert詞

- 強き祈りに應へ、爽かな朝風のごと、御使來り給ふ。
讃め歌いよゝ高まる御堂に御使下り給ふ。
- 萬の人々ベツテコステの聖き宴に集ひ來る。御使力強き讃歌を許し、受け容れ給ふ、聖き歌花の香のごと、至高き御座に漂ひ行く

ライオン 輪轉謄寫機
自働 謄 寫 版
東 亞

藝術謄寫版印刷

竹 田 謄 寫 堂

京 都 市 丸 太 町 通 烏 丸 西 入
電 話 上 ④ 4748 番 振 替 内 阪 74486 番

II 合 唱

- 1) Der Jager Abschied "獵人の別れ"
作品五十ノ二
Mendelssohn曲 (1809—1847)
Eichendorff詞

- 美はしき森よ、斯くも至高き處に、誰が汝を造りし、我その巨匠が榮えをほめ頌ふべし、我が聲四方に響かん。さらば、さらば、美はしき森よ、さらば。
- 讃め歌は亂れし世に響き、寂しく小鹿草を食み、我等進みて笛吹かん。さらば、さらば、美はしき森よ、さらば。
- 我等森にて讃えし如く、外なる地にて、年老ゆるとも、永久に眞實を保ち覺えん。さらば、さらば、我等が森に御護り豊かならん事を。

- 2) Sommerlied "夏の歌"
作品五十ノ三
Mendelssohn曲
Goethe 詞

- 野山露に輝き、草木眞珠のごと光る、茂みを通し風爽かに吹き、愛らしき小鳥日を浴びて囀る。
- あゝ、されど、我日の光に包れし、いぶせき小屋に愛しの人を見たり。萬物光輝ける大地遙かに擴がれり、遠く廣く。

III. 混 聲 合 唱

- Blue Danube Waltz "美はしく碧きドナウ"
作品三一四
Strauss曲 (1804—1849)
圓舞曲の王シュトラウスのドナウ河に寄せた讃歌である。歌詞は堀内敬三氏の譯による。

遙かに、果なく、ドナウの水は行く。うるはしあゝいろドナウの水は常に流れる。野を越えて、吹く風を楽しく手を組み、みづとりの鳴く聲に、微笑をなげ乍ら、春にははなのかけをもひたす、秋には月光をうかべる。
ワインの乙女の歌の調も、波はやさしく響き返す。
その昔のとき、こがねのボートにあでなる姫を見た日もあらう。
たけきぶしの、つづえのねみづのうへに、こだました日もあらう。
有り日をしのいで、多根の詩人は、此流れのほそりを、今も歩む。
すべては過去に消えても、夢みる心は、はなやかなりし昔をよみがえさうよ。
ドナウ。ドナウ。そをめぐる思出は、もやのごとく、われらをつつむのだ
水はさやかにうつくしく、空の様に碧く、限りなき美にドナウは満る。
われらいまうたふ、碧きドナウをたゞへて
われらいまうたふ、永遠に美しく碧きドナウの歌を。

休 憩

諸 官 衙 御 用 達

辻 田 洋 家 具 製 作 所

京 都 市 中 京 區 七 本 松 二 條 下 ル
電 壬 生 ④ 1449 番

Ⅵ 合 唱 (先輩合同)

- 1) 詩篇九十八 "新しき歌をエホバに向ひて唱へ" 作者不明
先輩 平田甫編

此の曲は我がクラブが過去幾度もなく歌つたもので、今日先輩諸氏と共に之を心ゆく迄歌ひ諸氏が曾てはクラブ員として歌はれた昔をなつかしみ憶ひ出したものである。

新しき歌もて、讃えまつれ主の御業、主はその御手もて我らの救をなし畢へ給ふ。主はその救ひを知らせ給ひ、その義を諸々の國人に示し給ふ。

Chant "又その憐憫と眞實とをイスラヘルの家に向ひて" 記念し給ふ。

"地の極も悉く我が神の" 救ひを見たり

- 1 "全地よエホバに向ひて歡ばしき聲を" あげよ"聲を發ちて歡び歌へ"
讃め唱へ

"琴をもてエホバを讃め" 歌へ"琴の音と歌の聲とを以て" 頌えまつれ。

- 2 "ラッパと角笛を吹き" 鳴らし"エホバの御前に歡ばしき" 聲をあげよ。
"海とその中に" 盈つるもの "世界と世界に住む者" 鳴響め

大海は手をうちならし、山々は歌へ、主なるエホバ來ましぬ。

その義しき御手もて全地をさばき給はん

父、子、聖靈の大御神に、御榮えあれや。昔、今、のちも、ときはかきわに盡きせぬ榮え。御神にあれや、アーメン。

- 2) Gloria "御榮えぞいと高し" Mozart曲
(1756—1791)
Robinson編

所謂 "第十二彌撒曲" —この曲が全部モーツアルトの手になつたものか、何らか疑問を掛ける評者もある一の第二番の樂章である。歌詞は我が部先輩山口隆俊氏の筆になる。

此の歌もグリークラブに取りては、過去幾回もなく唱はれた懐しき歌である。

萬軍の主よ、至高き主よ、至高き主の御名ぞ、ゆるぎなき萬軍の主の御名こそ聖なるかな、聖なるかな主よ、聖なるかな主よ、主ぞ世を統べ給ふ、御使等は伏し拜み、御座を圍み、頌え唱ふ、萬の國々拜めいざ萬の候達、いざ伏し拜み頌へよ。いざ萬の國々よ、いざ來り伏し拜み、語り告げまし、奇しき御業を、我等主を頌え、唱はん、聲をあげ、主よ我等叫び主の御業を頌えん、奇しき御業を唱はまし、主よ、主よ、我がきみよ、きみこそは、君の君、天地こそ御座なれ、きみこそきみのきみ、至高き主の御名に、いざ清き主よ、御榮えあれ、永久に永久に、永劫に、永劫に、主に御榮えあれ、さばきこしへに、御榮えとほまれ永劫永久に、主の御座にこそあれ。

新刊圖書雜誌・並に・古書籍

三 一 書 店

百萬遍電前通西入・電上5831

Ⅴ ピアノ獨奏

Sonata Cis moll (月光の曲) Beethoven曲

作品二十七ノ二

- 第一樂章 Adagio sostenuto 音を保ちて緩徐に
第二樂章 Allegretto 稍速く
第三樂章 Presto agitato 激して甚だ速く

ベートーヴェンの三十二のピアノソナタ中傑作の一つである此の幻想曲的ソナタは1801年作曲せられ、ユリーグイシアルディ伯爵夫人に捧げられてゐる。戀愛に關する苦惱或は破綻が描き出されて居るさ云はれ「月光」と云ふ名稱には何の意味もない。第一樂章は美しい、そして悲哀に満ちた旋律と和音が流れて憂苦を訴へる。最後の樂章に於て遂に憤怒は大爆發し激しい動亂の中に魂の格闘が續く。

Ⅵ 合 唱

INVOCATION(祈 願) Mendelssohn曲

今より約100年前、1840年ライプツィツヒに於て催された、印刷術發明者グーテンベルクの記念祭の "Festgesang" (祝歌)として作曲されたものである。祝日當日1840年6月25日(水)吹奏樂付男聲合唱隊により初公開された。

No. I) Chorale

妙なる調べを整へ合せ、御前にひれ伏し、御神を讃えん。陽よ、星よ、造主を讃め歌ふべし。御使御歌を唱ひ給ふ。榮えに輝く豫言者、贖はれたる民、奇しき傳を宣べひろむべし、赫やく御靈よラッパ吹き、琴引彈き鳴らして御神を讃えん。

No. II) Allegro Moderato

妙なる調べを永久の歌聲に合せ、煌く大海高く讃め頌えまつらん、光ありて我等を導き給ふ。斯くて眞理仇を除き、信仰と望み、疑いと恐れを拂ひて心清まり晴やかなるべし。人導きなく彷徨ひ、諸々の民等闇に包まれ光なし。萬物暗く侘し。光ありて導きを興へ給ふ。斯くて眞理仇を除かん。天地舉りて御神を讃めん。

No. III) Allegro molto

初めに言葉あり。言葉は光なり。御言葉下りて、闇を照せり。宇宙萬物皆讃め頌ふ。ときはかきはに御榮えあれと。讃めよ頌えよいざ諸共に、盡きせぬ讃め歌四方に充さん。

No. III) Chorale

やがて我等もその讃め歌を共に唱ひて讃えまつらん。讃め歌あがり赫きまして、いざ彈き唱ひて頌えまつらん。輝く御使その頌榮を盡きせぬ調べに合はしめ給ふ

(大槻記)

グリークラブ日誌より (昭和十三年十二月一十四年十一月現在)

- 昭和十三年十二月六日 十三年度總會を開き役員改選をなす。
 同 十二月末 數年ぶりに部報を發行したが、休暇中であつたので内容不備な点が多かつた。
 昭和十四年一月十日 第三學期練習開始。役員會を開いた結果本年度事業は二月六日に卒業生送別讚美禮拜、十月中旬にグリークラブ創立三十五周年記念會及び記念音樂會を開く事に決定す。此の爲毎木曜日午後六時半より神學館に於て特別練習をなす。
 同 二月六日 卒業生送別讚美禮拜をチャペルに於て開く。
 同 二月十七日 本學期練習終了。午後より卒業生高橋、太田、阿部兄の送別會を開く。
 同 四月初旬 新入部員募集に着手す。
 同 四月十七日 第一學期練習を開始す。新入生十七名を合せて現在部員四十二名となる
 同 四月二十九日 新入生歓迎會をグリーンランドに開く(新十二名 舊十八名)
 同 五月六日 全同志社新入生歓迎音樂會を始め陸軍病院慰問音樂會に出演す。今學期に於ても毎木曜日夕神學館に於て特別練習を行ふ事になつて居るが、部員中缺席者多き爲困難を感ず。
 同 五月八日 記念音樂會用INVOCATIONの譜の一部出來上り一同元氣に練習を始む。
 同 六月一日 練習豫定通り進まず、先輩出席の下に臨時總會を開き今後の練習に付き激勵を受く
 同 六月十九日 同志社混聲合唱發表會に十二名参加す。
 同 六月二十四日 今學期練習終了。來學期には九月二日一六日迄青柳のY.M.C.A.キャンプ場にて合宿練習を計畫す。
 同 八月二十五日 合宿準備、部報發行準備、樂譜印刷をなす。
 同 九月二日 六日 青柳にて合宿一参加員二十二名。
 同 九月十二日 第二學期練習開始。
 同 九月十九日 役員會を開く。記念音樂會日を十月二十一日に延期する事に決す。(組合教會總會準備の爲)
 同 九月二十八日 役員會を開き記念音樂會を再延期し十一月四日に決す。(十月二十日一三十日防空演習の爲)
 同 十月五日 チャペル練習(二十名)
 同 十月九日 三十五周年記念會を開く。(先輩出席十四名 部員二十七名)
 同 十月十二日 京都教會練習(二十四名)
 同 十月十四日 チャペル(二十五名)伴奏付練習。京都教會(二十一名)
 同 十月十九日 招待狀發送す。二十一日チャペル(二十四名)二十五日神學館(二十名)二十八日チャペル(二十六名)二十九日チャペル(二十五名)三十日榮光館(二八名)三十一日チャペル十一月二日チャペル同三日チャペルにて先輩と合同練習
 同 四日 記念音樂會。

(H生記)

文藝復興期
 聖合唱曲集 サムソン指揮
 デイジョン大寺聖歌隊

- | | | | |
|-----|----|----|---|
| デ | ア | ア | ア |
| ブ | ヴェ | ヴェ | ケ |
| レ | ルム | ルム | ロ |
| | | | ド |
| | | | ミ |
| ヴィ | キ | キ | リ |
| ット | リエ | リエ | エ |
| ー | | | |
| リア | き | き | よ |
| | よ | よ | き |
| モー | き | き | み |
| デ | み | み | 寺 |
| ュ | 寺 | 寺 | に |
| イ | | | |
| ジャン | クル | クル | ス |
| 四 | フ | フ | ィ |
| 世 | ィ | ィ | デ |
| | リス | リス | ス |
| アイ | | | |
| ヒン | ア | ア | ベ |
| ガー | ベル | ベル | は |
| | は | は | ど |
| | どこ | どこ | に |
| パ | 聖 | 聖 | 母 |
| レ | 母 | 母 | 昇 |
| ス | 天 | 天 | ミ |
| ト | サ | サ | ヨ |
| リ | リ | リ | キ |
| ーナ | リ | リ | エ |
| | エ | エ | ー |
| | クリ | クリ | ス |
| | ス | ス | テ |
| | | | |
| | キ | キ | リ |
| | リ | リ | エ |
| | ア | ア | ー |
| | ア | ア | ニ |
| | ユ | ユ | ス |
| | ニ | ニ | ス |
| | ス | ス | ト |
| | ウ | ウ | ウ |
| | ス | ス | ス |
| | | | |
| | ベ | ベ | ネ |
| | ネ | ネ | デ |
| | ディ | ディ | ク |
| | クト | クト | ト |
| | ウス | ウス | ウ |
| | ス | ス | ス |



ミュージック サモワール

(JD1633-37 ¥19.25)

= 今出川寺町西入 =



自然美を生かした
 氣品ある寫眞

出町寫眞場

河原町今出川下ル(電上③5582番)